下末吉だより

令和５年９月２９日
10月号
横浜市立下末吉小学校

これからの学校教育

副校長　　坂本　直人

先日、本校児童の健やかな体づくりの一環としてスポーツクラブメガロスによる出前授業が行われました。低学年、高学年に分かれて行いましたが、どちらもとても意欲的に取り組んでいました。運動会に向けて、走り方のコツや縄跳びの練習のコツを実践の中で教えていただきました。

6月から先週まで行っていた水泳学習では、「ヨコヤマスイミングスクール」をお借りして、コーチに指導をしていただきました。天候等による予定の変更をする必要がなく、充実した環境で毎回実施することができました。

5、6年生は総合的な学習の時間で、「会社経営プロジェクト」に取り組んでいます。これは、小学生が社会課題やビジネスに目を向ける意識を醸成することをねらいとして、横浜市経済局新産業創造課と連携した事業です。活動のスタートとして、株式会社デジサーフの代表取締役社長である高橋佳伸さんにお越しいただき、ご講演いただきました。講演の中で、「苦労の先には必ず成功が待っている」という言葉がありました。頑張った分その先にはよいことが待っているのだと、私は感じました。

これら3つの活動の中で、子ども達は普段学校生活で接する以外の大人と接し、友達と協力しながら、新しい価値を創造する力を育成することができるのではないかと考えています。今後も様々な人達との協働的な学びの場を考え実践していきます。

これからの時代を生きる子ども達にとって、「学校教育」はどのように影響していくのでしょう。今までの取組のよいところを残しつつも、今の時代に合わせ変化していくことが求められる学校教育。そのような中で、横浜市が目指す方向性について紹介します。

〇IRT（Item　Response　Theory）を生かした学力向上

今年度実施の学力学習状況調査結果の速報値をもとに、令和4年度からの一年間の伸びの分析を行いながら、多様な子どもたち一人ひとりに合った最適な支援の在り方について考えていきます。子ども達一人ひとりの伸びを実感することができる取組として大きな役割を担っていくと考えられています。

〇社会情動的コンピテンシー（非認知能力）を高める

集中力や忍耐力、コミュニケーション力などコロナ禍において改めて問われた情動的コンピテンシーの視点から考えていく取組です。今学校が行っている教育活動を社会情動的コンピテンシーの視点から見直していきます。これまでも大切にしてきた学級経営や学年経営をしっかりと行っていくことが、個と集団の両方をバランスよく育んでいくと考え、実践していきます。

〇学校教育 DX の推進

「横浜 DX（デジタルトランスフォーメーション）戦略」と題し、スマートフォンの普及などデジタル化による社会生活の急速な変化に対して、デジタル技術を用いて様々な課題を解決し、新たな価値を生み出すというものです。民間人材の活用や多様な主体との連携を通じて、DXの実現に向け取り組むため、「デジタル×デザイン」をキーワードに、デジタルの恩恵をすべての人にいきわたらせることを狙いとしています。

私たち教職員も、新しいものを取り入れていくことで、下末吉小学校の子ども達が多くの人と関わる楽しさを感じ、その中で「自分らしさ」を見つけ、成長していくことができるよう支援していきます。